

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671600272		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホーム御所		
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地の1		
自己評価作成日	平成22年5月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671600272&SCD=320
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や職員は毎日笑顔にあふれ、穏やかで家庭的な雰囲気のなか過ごしている。事業所は自然に囲まれ四季を肌で感じることができる。四国八十八ヶ所のお遍路沿いに事業所があるため、お接待を行えるように看板を設置し気軽に訪問してもらっている。地域住民からも温かく接してもらっている。職員は、地域住民の一員としてともに暮らすことの重要性を認識している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた緑豊かな田園の中に立地し、近くには保育園や温泉施設がある。保育園児との交流やボランティアを積極的に受け入れている。職員は常に利用者の視点に立ったケアに取り組み、職員間で協力体制を築いている。管理者は職員が利用者とともに安心して働ける職場づくりに取り組むことで質の高いサービス提供に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、全職員が認識できるように掲示することで共有し実践に活かしている。	毎日のミーティングや申し送り時に理念について話し合い、日々のサービスに反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や清掃活動ボランティア、保育センターの行事などに参加している。また、毎日買い物に出かけ地域との交流を図っている。	保育園や地域行事に積極的に参加したり日ごろから散歩や買い物に出かけている。また、手話や朗読ボランティアに来訪してもらうなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に老人介護や認知症について一層理解していただくために、講習会で職員が講師を勤めたこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろの取り組みや方針について話し合っている。運営推進会議で出された意見や要望は、職員に伝達し、可能なことは取り入れて実践し、サービスの質の向上につなげている。	運営推進会議ではテーマを決めて、参加者から質問や意見・要望などを出してもらって双方向的な会議を行い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	契約や規約変更の際には報告に出向いている。また毎月ホーム便りを送付している。地域包括支援センターや市町村との連携も密に図っている。	ホーム便りを届けたり報告に出向いている。また、市担当者の来訪もあり連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないように心がけているが、やむを得ない理由により拘束が必要な場合には、家族等へ説明を行い理解を得てから同意書に署名してもらっている。	職員が身体拘束をしないように常に利用者の視点に立って問題意識を持ってケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束する必要がある場合は、家族に十分な説明を行って理解を得ている。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから虐待のないケアを行っている。また研修会に積極的に参加し、職員間で話し合い共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいるため、管理者や職員はこれらの制度の必要性を感じている。現在、活用を勧めるまでの支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分な説明を行い、納得を得て同意をいただくようにしている。疑問等があれば、随時説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表者や管理者、職員は常に意見を聞く姿勢を持つようにしている。言いにくい意見は意見箱や外部評価で把握し、運営に反映させている。	家族の来訪時に話し合いの機会を設け、気軽に意見を出してもらえぬ雰囲気づくりに取り組んでいる。出された意見は職員間で話し合い、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時や勉強会において、職員の意見を聞いている。管理者は頻りに現場に来ており職員とのコミュニケーションを図っている。	管理者と職員はコミュニケーションを図り、毎日のミーティング時に出された意見やアイデアを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、賞与等の処遇面にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	老人福祉施設協議会や社会福祉協議会等の研修会に積極的に参加している。事業所内でも勉強会やミーティングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと情報の共有や交流を図っている。また、老人福祉施設協議会に加入している他事業所との交流や研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を知るために事前に訪問したり、来訪を受けたりしている。信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をよく聞き状態把握に努めている。また家族が納得できるように適切なアドバイスを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要としているサービスについて、広い視野から見つけ検討している。希望にそったサービスと必要であると思われるサービスを提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員がともに協力し、日々明るく楽しく支えあって生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子をこまめに伝えている。家族とともに利用者を支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族の希望があれば、行きつけの美容院へ行っている。近所の方がデイサービスを利用している時は、お伺いして昔からの関係を保つように心がけている。	馴染みの美容院へ出かけたり、併設事業所を利用する友人に会いに行き話をするなど、継続的な交流を図っている。また、利用者が社会福祉大会でお祝いをしてもらうなど、地域社会との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに過ごせる時間と場を支援している。利用者一人ひとりが他の人の手助けをし、支え合いといったわりの場面が随所で見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、心身の状態等を気にかけて家族の相談に応じている。併設事業所へ移った場合も情報提供を行い、面会に出向くなどしてなじみの関係を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話に耳を傾け、表情や行動からも思いや希望を把握しようとしている。様々な方向から利用者のことを考えるため全職員で話し合っている。	日々のかかわりの中で、利用者が何を求めているのかを理解するために、常に状態を把握するように努めている。意思疎通が困難な方には声かけや行動を通して意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や関係者の協力のもと情報を得ている。日ごろの関わりからも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。日々の関わりから利用者の有する力を把握し、職員全員が認識できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見や要望を聞きそれを踏まえてカンファレンスで介護計画を作成している。	「ゆっくり過ごしたい」「ゆっくり風呂に入りたい」「ゆっくりご飯が食べたい」といった本人の意向や意見を聞き、サービスに反映できるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し日々の様子など細かい所まで記録している。気づきがあればすぐ記録し、担当者に伝え計画の見直しなどに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望に応じた対応をしている。併設事業所への移動など、状況に合わせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターとの交流や学生、ボランティアの受入を行っている。地域の店舗などへも出向くなど楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医との関係を絶つことなく安心して医療を受けられるよう務めている。家族や主治医、関係医療機関との連絡を密にしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には希望に応じて職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員や訪問看護師による日常の健康管理を行っている。介護職も加わり状態変化等の早期発見に努めている。医療についての疑問などがあるときは、医師や看護師に相談し知識を得るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間をなるべく短くするように、家族や担当医師、看護師と情報交換を行い、早期退院に努めている。退院後のケアをスムーズに行えるように全職員で情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。職員は医療機関や訪問看護師との連携のなかで、重度化対応や終末期支援ができるように随時勉強会を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方についての対応指針を作成し、利用者や家族が安心して納得した支援が行えるよう勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で救命講習を受講している。また訪問看護師の協力のもと緊急時の対応法などを学習している。事業所独自の緊急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルにもとづき、併設事業所とともに消防訓練を年2回行っている。地域の消防団の協力を得られる体制が整っている。法人で災害に備えた非常食の準備を行っている。	マニュアルを作成している。年2回、日中と夜間を想定した訓練を実施している。地域の消防団員や民生委員の協力も得ている。非常食の備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りをそこなわない言葉がけを行うなど、介護に細心の注意を払っている。記録等は保管し個人情報保護に努めている。	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう、さりげない言葉かけや対応をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態にあわせた声かけを行っている。意思表示の困難な方には関わりを多くもち、表情や反応から注意深く読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いをせず、個々のペースを大事にしている。利用者一人ひとりの望む暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を尊重し、毛染めや化粧の希望があれば支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に嗜好調査を行い、献立に意見を取り入れている。食事準備や片付けなど一緒に行うようにしている。	利用者と一緒に採ってきた、よもぎやたけのこを利用して食事やおやつを作り、季節を感じられるように工夫している。準備や片付けを職員と利用者がともに行って、楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけて献立を立てており、定期的に栄養士にもチェックしてもらっている。利用者一人ひとりの健康状態に応じ、水分量や食事量を調整している。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声かけをしている。必要に応じ、一人ひとりの力量に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握し、トイレ誘導や声かけを行っている。なるべくトイレで排泄できるように支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給をこまめに行っている。身体を動かしたり便秘解消のマッサージをとり入れたりすることで、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重した声かけを行っている。ゆっくりと入浴できるように、時間には余裕を持つようにしている。	ゆっくりと入浴ができるように個々のペースに合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや畳などを設置している。冬場はこたつを設置し、家庭的な雰囲気の中でくつろげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬一覧ファイルを作り、職員の見やすい場所に保管している。誤薬を防ぐため、名前などの確認は随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことを見つけられるように声かけを行っている。事業所で動物を飼育し、世話をすることが生きがいになっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候により、散歩や買い物など外出の支援を行っている。月1回程度は全体で外出を行っている。	本人の希望を聞いて散歩や買い物、美容院へ出かけている。月1回、全体で外出をして外気に触れる機会を設けるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニットA(花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少量のお金をもっている方もいる。お金をもつことで使用しなくても安心している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた家族を心配するなど、電話の希望がある時は支援している。広報誌に本人にコメントを書いてももらうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物(雛人形、5月人形、七夕飾りなど)を飾り、四季折々に居心地のよい共有空間になるように工夫している。	ご飯の炊ける匂いや食器を洗う水の音など、五感を刺激する配慮をしている。季節の花を飾ることで生活感や季節感を取り入れ、居心地のよい空間になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーを設けている。外にはベンチを置き、一人で過ごしたり、少人数でくつろげるスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と話し合い、使い慣れた家具などを持参してもらっている。馴染みの物を活かし、以前と変わらない生活が送れるよう配慮している。	使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込んだり、遺影を置いている利用者もいる。利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に絨毯を敷きつめたり、手すりを設置したりと個々に合わせ安全の配慮を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、全職員が認識できるように掲示することで共有し実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事や清掃活動ボランティア、保育センターの行事などに参加している。また、毎日買い物に出かけ地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に老人介護や認知症について一層理解していただくために、講習会で職員が講師を勤めたこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろの取り組みや方針について話し合っている。運営推進会議で出された意見や要望は、職員に伝達し、可能なことは取り入れて実践し、サービスの質の向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	契約や規約変更の際には報告に出向いている。また毎月ホーム便りを送付している。地域包括支援センターや市町村との連携も密に図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないように心がけているが、やむを得ない理由により拘束が必要な場合には、家族等へ説明を行い理解を得てから同意書に署名してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろより虐待のないケアを行っている。また研修会に積極的に参加し、職員間で話し合い共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいるため、管理者や職員はこれらの制度の必要性を感じている。現在、活用を勧めるまでの支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分な説明を行い、納得を得て同意をいただくようにしている。疑問等があれば随時説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表者や管理者、職員は常に意見を聞く姿勢を持つようにしている。言いにくい意見は意見箱や外部評価で把握し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時や勉強会において、職員の意見を聞いている。管理者は頻繁に現場に来ており職員とのコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、賞与等の処遇面にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	老人福祉施設協議会や社会福祉協議会等の研修会に積極的に参加している。事業所内でも勉強会やミーティングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと情報の共有や交流を図っている。また、老人福祉施設協議会に加入している他事業所との交流や研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を知るために事前に訪問したり、来訪を受けたりしている。信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をよく聞き状態把握に努めている。また家族が納得できるように適切なアドバイスを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要としているサービスについて、広い視野から見つめ検討している。希望にそったサービスと必要であると思われるサービスを提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員がともに協力し、日々明るく楽しく支えあって生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子をこまめに伝えている。家族とともに利用者を支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族の希望があれば、行きつけの美容院へ行っている。近所の方がデイサービスを利用している時は、お伺いして昔からの関係を保つように心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに過ごせる時間と場を支援している。利用者一人ひとりが他の人の手助けをし、支え合いといったわりの場面が随所で見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、心身の状態等を気にかけて家族の相談にも応じている。併設事業所へ移った場合も情報提供を行い、面会に出向くなどして、なじみの関係を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話に耳を傾け、表情や行動からも思いや希望を把握しようとしている。様々な方向から利用者のことを考えるため全職員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や関係者の協力のもと情報を得ている。日ごろの関わりからも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。日々の関わりから利用者の有する力を把握し、職員全員が認識できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見や要望を聞きそれを踏まえてカンファレンスで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し日々の様子など細かい所まで記録している。気づきがあればすぐ記録し、担当者に伝え計画の見直しなどに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望に応じた対応をしている。併設事業所への移動など、状況に合わせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターとの交流や学生、ボランティアの受入を行っている。地域の店舗などへも出向くなど楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医との関係を絶つことなく安心して医療を受けられるよう務めている。家族や主治医、関係医療機関との連絡を密にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員や訪問看護師による日常の健康管理を行っている。介護職も加わり状態変化等の早期発見に努めている。医療についての疑問などがあるときは、医師や看護師に相談し知識を得るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間をなるべく短くするように、家族や担当医師、看護師と情報交換を行い、早期退院に努めている。退院後のケアをスムーズに行えるように全職員で情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。職員は医療機関や訪問看護師との連携のなかで、重度化対応や終末期支援ができるように随時勉強会を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で救命講習を受講している。また訪問看護師の協力のもと緊急時の対応法などを学習している。事業所独自の緊急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルにもとづき、併設事業所とともに消防訓練を年2回行っている。地域の消防団の協力を得られる体制が整っている。法人で災害に備えた非常食の準備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りをそこなわない言葉がけを行うなど、介護に細心の注意を払っている。記録等は保管し個人情報保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態にあわせた声かけを行っている。意思表示の困難な方には関わりを多くもち、表情や反応から注意深く読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いをせず、個々のペースを大事にしている。利用者一人ひとりの望む暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を尊重し、毛染めや化粧の希望があれば支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に嗜好調査を行い、献立に意見を取り入れている。食事準備や片付けなど一緒に行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけて献立を立てており、定期的に栄養士にもチェックしてもらっている。利用者一人ひとりの健康状態に応じ、水分量や食事量を調整している。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声かけをしている。必要に応じ、一人ひとりの力量に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握し、トイレ誘導や声かけを行っている。なるべくトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給をこまめに行っている。身体を動かしたり便秘解消のマッサージをとり入れたりすることで、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重した声かけを行っている。ゆっくりと入浴できるように、時間には余裕を持つようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳などを設置している。冬場はこたつを設置し、家庭的な雰囲気の中でくつろげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬一覧ファイルを作り、職員の見やすい場所に保管している。誤薬を防ぐため、名前などの確認は随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことを見つけられるように声かけを行っている。事業所で動物を飼育し、世話をすることが生きがいになっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候により、散歩や買い物など外出の支援を行っている。月1回程度は全体で外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットB(和) 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少量のお金をもっている方もいる。お金をもつことで使用しなくても安心して利用している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた家族を心配するなど、電話の希望がある時は支援している。広報誌に本人にコメントを書いてもらうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物(雛人形、五月人形、七夕飾りなど)を飾り、四季折々に居心地のよい共有空間になるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーを設けている。外にはベンチを置き、一人で過ごしたり、少人数でくつろげるスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と話し合い、使い慣れた家具などを持参してもらっている。馴染みの物を活かし、以前と変わらない生活を送れるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室に絨毯を敷きつめたり、手すりを設置したりと個々に合わせ安全の配慮を行っている。		